



## 認知症対策を含めた介護事業の 取り組みは

若月忠男 議員

**町長** 認知症になっても安心して生活できる  
「まち」づくりを目指す



**問** 認知症になっても安心して、暮せる「まち」づくりを目指した、奥出雲町のこれからの基本的な取り組みについての考えは。

**答** 認知症予防については、啓発活動やさまざまな社会参加の機会を確保し、また高齢者自身が地域活動の担い手となるような取り組みを推進する。

**問** 奥出雲町においてはいち早く「認知症初期集中支援チーム」を設置しているが、その取り組み状況と、効果は。

**答** 医療や介護サービスなどの連携を図る事業で、タブレット端末を使って簡易認知機能評価を行い、認知症の早期発見や早期

治療につなげている。医療や介護サービスなどの支援機関をつなぐ「コードネーター」として、平成24年から認知症地域支援推進員を地域包括支援センターに配置相談に対応している。

**問** 地域包括支援のなかで認知症対策を含めた介護事業の取り組みは。

**答** 現在策定中の雲南地域第6期介護保険事業計画では、平成27年度から地域支援事業の枠組みを活用して、在宅医療、介護認知症施策、生活支援サービスの充実強化を推進していく。特に、認知症施策については、初期集中支援チームの関与による認知症の早期診断、早期対応や地域支援員による相談対応で、認知症になっても安心して生活できる地域の実現に取り組むこととしている。

**問** 地域おこし協力隊の人数が募集に対して、届かない実態であり、更に再募集が必要と思うが考えは。

**答** 2月末日までに隊員の募集を受け付けたところ11名の応募者があり、書類審査、希望者には現地見学会、面接試験による選考を行い、業務への意欲、人柄などの観点から決定する。今後の募集については、このたびの採用状況をふまえ、6月頃をめどに第2次募集を行いたいと考えている。

**問** 奥出雲でしかできない特色のある支援をどのように発揮していくかのミーティング等についての考えは。

**答** 地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を誘致し、地域力の維持、強化であり、本町においては都会地での経験を生かし、これからの町づくりの新たな原動力となっていたいくことを期待している。

**問** 奥出雲町まちひと・しごと創生総合戦略審議会への協力隊員の参画についての考えは。

**答** 外からの目線で本町



認知症になっても安心して暮せる  
「まち」づくりイラスト

の強み、弱みを客観的に指摘、アドバイスするなど、各種会議などの場で積極的に参加してほしい。

**問** 町内各小学校や中学校の各学級の普通教室に年次計画でエアコンを設置する考えは。

**答** 未設置の学校も現在7校あり、教育環境整備のバランスを見据えながら検討していく。

**問** プレミアム商品券は何月から使用ができるか、また利用者の使い勝手を検討し、高齢者への配慮の考えは。

**答** 使用期間は5月より8月までの4カ月間としている。引き替え方法については、高齢者の方などにもなるべく負担とならない方法を検討している。